

石綿処理に係る工事仕様書			
第1章 一般事項			
1.1 適用範囲			
(1) この工事仕様書は、吹付け石綿および石綿を含む建設材料（以下「石綿含有材料」という。）を使用する建築物その他の施設の解体又は改修の工事（以下「石綿含有建築物解体等工事」という。）を施工する場合に適用する。			
石綿含有材料はすべての種類の石綿及びそれらをその重量の0.1％を超えて含有する物をいう。			
石綿含有材料の種類は、吹付けアスベスト、アスベスト保温材、アスベスト成形板等で「建築物の解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」（平成21年10月 環境局）第2章による。下記URLを参照すること。			
東京都環境局 <a href="http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/kaizen/kisei/taiki/asbest/index.htm">http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/kaizen/kisei/taiki/asbest/index.htm</a>			
なお、既に封じ込められている吹付けアスベスト等も、吹付けアスベストと同様の扱いとする。			
(2) この工事は、設計図書に依り施工するが、設計図書に明示されていない事項でも工事の性質上当然必要なものは、監督員の指示に依り施工する。			
1.2 法令等の遵守			
施工にあたっては、大気汚染防止法（昭和43年法律97号）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）、労働安全衛生法（昭和47年 法律57号）、石綿障害予防規則（平成17年 厚生労働省令 21号）、建築基準法（昭和25年法律201号）、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（平成12年 条例第215号）、建築物の解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル（平成21年10月 環境局）、アスベスト成形板対策マニュアル（平成19年5月 環境局）等、石綿処理に関する諸法令等を遵守し、第三者に危害を与えることなくように施工する。諸法令の適用及び運用は請負者の負担と責任において行う。			
1.3 施工計画書			
請負者は、事前に石綿障害予防規則第4条に定められた事項を盛り込んだ施工計画書を作成し、監督員に提出し、承諾を得た後に施工する。			
1.4 関係官庁への届出			
請負者は、作業に必要な届出書類等の届出について遅滞なく行う。			
1.5 従事する作業者等			
(1) 請負者は、石綿含有建築物解体等工事にあたり石綿障害予防規則第19条に基づき「石綿作業主任者」を選任し、資格証明書及び工事経歴書の写しを施工計画書に添付する。			
(2) 請負者は、石綿作業に従事する作業員等について、健康診断を受診させるなど、法令に定める健康の保持増進のための必要措置を講じなければならない。			
1.6 事前教育			
請負者は、「石綿含有建築物解体等工事」に従事する作業員に対して、事前に石綿障害予防規則第27条に基づく特別教育を行い、その実施内容を監督員に報告する。			
第2章 作業上の遵守事項			
2.1 使用状況の事前調査			
(1) 建築物その他の施設等において使用されている石綿含有材料の使用状況（材料の種類並びに使用の箇所及び規模をいう。以下同じ。）を設計図書等及び現場目視によって調査し、記録する。（調査報告書は、別紙添付）			
(2) (1)の調査において、石綿の使用状況が判明しない場合は、石綿等の使用の有無をJIS-A-1481（2008）に基づく分析方法により、クリソタイル、クロシドライト、アモサイト、アクチノライト、アンソフィライト及びトレモライトを含むすべての種類の石綿について、調査し、記録する。この場合、試料採取に際して、石綿の飛散防止を徹底するとともに、採取後は石綿飛散防止剤（硬化剤）を散布し、又は粘着性テープ等を利用して粉じんが飛散しないよう補修する。			
(3) (1)(2)の調査において判明した石綿等の使用状況内容について、結果を監督員に報告すること。			
※設計時アスベスト調査に於いて、アスベスト含有が認められた箇所及び見なし建材は下記による。			
1 構造鉄骨：耐火被覆吹付材			
2 3階 機械室天井裏			
3 屋上・各階トイレ 防水			
4 建物全体 開口部			
5 見なし建材（レベル3）			
① フレキシブルボード（石綿板、フレキシブル板）：1階 給湯室天井			
② プラタイル			
③ 繊維吸音板（ミネラートン）			
④ プラスターボード（石膏ボード、PB）			
⑤ 長尺塩ビシート			
⑥ 無機質クロス（ビニルクロス）			
⑦ グラウトパッキン			
⑧ グラウト保温材・フレキシジョイント			
※1 ⑦⑧の見なし建材については、ブーズカット工法による除去としてレベル3扱いとする。			
※2 見なし建材については、目視及び図面調査の結果であるため、事前調査を行い記録を要すること。			
※3 機械設備工事区分の対象部分数量については、機械設備工事関連凡例下の注記を参照のこと。			
※4 上記見なし建材については、箇の運搬の關係上、平成25年3月下旬に含有量調査を計画している。その結果、アスベストが含有していない場合には、通常の廃棄物として処分すること。なお、数量の増減については、監督員と協議すること。			
2.2 浮遊石綿濃度測定等			
(1) 吹付けアスベスト及びアスベスト保温材等のアスベスト除去工事を施工する場合は次による。			
ア 請負者は、工事の場所の敷地の境界線の上のうちで、換気装置の排出口にも近い場所を含む建築物その他の施設の周辺4方向の指示による場所について、作業前、作業中、作業後の浮遊石綿濃度を測定し、報告書を提出する。（必須）			
イ 施工区間の隔離状況を把握するため、指示による次の地点において、浮遊石綿濃度を測定し、報告書を提出する。（必須、推奨等）			
・ 施工区間内（作業前、隔離用シート除去前）【必須】			
・ 除去作業中の前室の入り口など、施工区間の直近の外周（作業前、作業中、作業後）【推奨】			
・ 施工区間内（石綿除去作業中（特に石綿濃度が高くなる恐れ等がある場合））【必要に応じ】			
ウ 浮遊石綿濃度の測定方法は、JIS K 3850-1及び平成元年環境庁告示第93号「石綿に關する特定粉じん濃度の測定法」に基づき行う。			
エ 測定は、作業環境測定法に基づき都道府県労働局に登録されている第三者の作業環境測定機関が行うものとし、施工計画書に記載する。			
※ 浮遊石綿濃度の測定は、施工区間ごとに行う。また、アスベスト除去工事の作業期間が6日を超える場合、6日ごとに1回以上行う。			
(2) アスベスト成形板の除去工事を施工する場合は次による。			
・ 目視による監視を実施する。			
2.3 石綿含有材料の除去作業			
(1) 吹付けアスベスト及びアスベスト保温材等の除去作業は、次の方法により行う。			
ア 吹付けアスベスト及びアスベスト保温材等の除去は、解体又は改修工事に先立って行う。			
イ 除去作業を行う場所は、プラスチックシート等（壁等の場合0.08mm以上を一枚重ね、床の場合0.15mm以上を二枚重ねの厚さのビニールシートなどをいう。以下同じ。）で覆うなどして、周辺と隔離する。			
ウ 隔離した区間の出入口には、アスベスト粉じんによる二次汚染を防止するため、前室、エアシャワーユニット等を備えた洗浄室及び更衣室の3室で構成するセキュリティゾーンを設ける。			
エ 隔離した区間は、石綿の飛散を防ぐことのできるフィルター（JIS Z 8122に規定する超高性能微粒粒子フィルター（HEPA（High Efficiency Particular Air Filter））及びこれに準じたものをいう。以下「石綿飛散防止フィルター」という。）付換気装置によって換気し、常時負圧を保つ。			
オ 除去作業するには、電動ファン付き呼吸用保護具、防護メガネ及び作業衣等を着用させる。			
カ 除去作業は、石綿部分を石綿飛散防止剤（湿潤剤）により湿潤化した後に行い、石綿が残留しないように注意する。			
キ 石綿含有材料を湿潤化するために行う散水その他の措置により石綿を含む水を排出するときは、ろ過処理その他の適切な処置を行う。			
ク 石綿含有材料を除去した部分には、石綿飛散防止剤（硬化剤）を散布する。			
ケ 除去作業に使用した工具及び資材等は、付着した石綿を石綿飛散防止フィルター付真空掃除機等で取り除いた後、当該作業区間の外へ搬出する。また、着用した保護衣等は、付着した粉じんを石綿飛散防止フィルター付真空掃除機等で除去した後には区間外へ搬出するか、又は処分する場合は石綿等の廃棄物と同等の措置を行う。			
コ 隔離に使用したプラスチックシート等は、石綿飛散防止フィルター付真空掃除機等で清掃した後、石綿飛散防止剤（硬化剤）を散布し、作業区間内の空気の粉じんを十分行った後に取り外す。			
サ 区画した作業区域には、「石綿等の取り扱い作業員以外立入禁止」の表示を行う。			
シ 作業場には、「禁煙・飲食禁止」、「石綿等を取り扱う作業場であること、石綿等の人体に及ぼす作用、石綿等の取り扱い上の注意事項、使用すべき保護具」の提示を見やすい場所に提示する。			
ス 「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ（労働基準監督署への届出内容、石綿のばく露防止措置及び石綿粉じんの飛散防止措置等）」を公衆の見やすい場所に提示する。提示にあたっては、「建築物等の解体等の作業を行うに当たっては石綿ばく露防止対策等の実施内容の提示について」（平成17年5月2日 基安発第0802001号 厚生労働省労働基準局安全衛生部長）及び、「大気環境中への石綿（アスベスト）の飛散防止対策の徹底と実施内容の提示について（通知）」（平成17年8月9日 環管大発第050809001号 環境省環境管理局長）に基づく提示を行い、その提示状況の記録等を監督員に提出する。			
大気汚染防止法に基づく届出（特定粉じん排出等作業実施届）については、大気汚染防止法に基づく届出内容を上記提示に追記すること。東京都環境確保条例等に基づく届出を行った場合も同様の追記をすること。また、提示内容に変更が生じた場合についても、修正後の記録等真を監督員に提出する。			
なお、提示板の大きさについては、600×900mm以上とする。			
下記のURL参照のこと。 <a href="http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/08/0802-1.html">http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/08/0802-1.html</a> （厚生労働省：建築物等の解体作業等における石綿のばく露防止対策等の提示について）			
(2) 建物内部アスベスト含有材の除去作業は、次の方法により行う。			
ア アスベスト含有材の除去は、外部建具等の撤去に先立って行う。			
イ 除去作業を行う場合は、外部建具を閉鎖するとともに、ガラスの破損箇所や換気扇等で粉じんが外部に飛散する恐れがある箇所をプラスチックシート等で塞ぐ。			
ウ アスベスト含有材の除去は、可能な限り原則として「手ばらし」とする。			
エ 除去作業中は、アスベスト含有材を下記により常に湿潤化状態にして作業する。			
・ 石綿飛散防止剤（湿潤剤）等の噴霧による湿潤化			
・ 水噴霧による湿潤化			
・ 散水による湿潤化			
※ 石綿含有材料を湿潤化するために行う散水その他の措置により石綿を含む水を排出するときは、ろ過処理その他の適切な処置を行う。			
オ やむを得ず電動工具等を使用して、アスベスト含有材を除去しなければならない場合で、粉じんの飛散が飛散性73バシの除去工事レベルになることが予想される場合は、上記(1)の吹付けアスベスト及びアスベスト保温材等の除去作業方法に準じて作業する。			
カ 除去作業時には、呼吸用保護具、防護メガネ及び作業衣等を着用させる。また、着用した作業衣等は付着した粉じんを除去した後には区間外へ搬出するか、又は処分する場合は石綿等の廃棄物と同等の措置を行う。			
キ アスベスト成形板を破砕した場合には、除去作業後、アスベストの破片、破断粉及び作業衣等に付着した粉じんが残存しないよう、石綿飛散防止フィルター付真空掃除機等により、清掃及び片付けを十分に行う。			
ク 区画した作業区域には、「石綿等の取り扱い作業員以外立入禁止」の表示を行う。			
ケ 作業場には、「禁煙・飲食禁止」、「石綿等を取り扱う作業場であること、石綿等の人体に及ぼす作用、石綿等の取り扱い上の注意事項、使用すべき保護具」の提示を見やすい場所に提示する。			
※ 「手ばらし」とは、アスベスト含有材の接合・固定状態を、簡易な工具等で解離またはその位置において人力により破砕して現位置より除去することをいう。一般的には飛散はないが、やむを得ず破壊しなければならない場合には、十分に湿潤化した状態で作業を行う。			
※ アスベスト処理に關する監督員の保護具を処分する場合は、関係法令に依り適切に処分を行うこと。			
2.5 解体工事によって発生した廃材の集積・運搬			
(1) 吹付けアスベスト及びアスベスト保温材等の廃材（廃石綿等）			
ア 除去された廃材は、次のいずれかの方法で石綿の飛散防止を図る。			
・ 石綿飛散防止剤（湿潤剤）で湿潤し、十分な強度を有する耐水性の材料で二重に梱包する。（プラスチック製の袋を使用する場合、厚0.15mm以上）			
イ 運搬するまでの保管は、特別管理産業廃棄物保管基準に従い次による。			
(f) 保管は、保管施設でを行い、石綿が飛散しないようにする。			
(f) 保管施設には、周囲に囲いを設け、見やすい場所に特別管理産業廃棄物の保管場所であること及び保管する特別産業廃棄物の種類（廃石綿等）並びに特別管理産業廃棄物管理責任者の氏名と連絡先を表示する。			
(g) 石綿廃棄物に他の物が混入するおそれがないよう仕切りを設ける。			
ウ 収集・運搬は、特別管理産業廃棄物収集運搬業者が特別管理産業廃棄物収集・運搬基準に従い、他の廃棄物と混合する恐れのないように他のものと区別して収集し、運搬する。			
(2) アスベスト（アスファルト防水・非飛散性）の廃材（石綿含有産業廃棄物）			
ア 作業において、破砕された廃材（石綿含有産業廃棄物）は、石綿飛散防止剤（湿潤剤）等で湿潤し、十分な強度を有するプラスチック製の袋に入れる等、飛散防止の措置をする。			
イ 運搬するまで、現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め他の内装材と区別して保管し、シート等で覆うなど、飛散防止の措置をする。また、保管場所には、石綿含有産業廃棄物（アスベスト成形板）であることの表示を行なう。			
ウ 収集・運搬は、産業廃棄物収集運搬業者が行い、運搬車両の荷台に囲いを掛けるなどの飛散防止を講じるとともに、運搬途中に振動等で破損しないようにする。			
2.6 工事現場の清掃、廃棄物の処理			
工事の終了時は工事現場及びその周辺に、石綿含有材料の破片その他の石綿を含有するくずが残存しないよう後片付け及び清掃を徹底する。			
また、石綿含有材料の破片その他の石綿を含有するくず及び他の廃棄物は、次によるほか、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）に定めるところにより処理する。			
ア ・ 吹付けアスベスト及びアスベスト保温材等は、特別管理産業廃棄物として管理型処分場で処分する。			
・ 廃石綿（管理型最終処分場）／ 搬出距離： 約 km			
・ 工事で使用した養生シート及びフィルター等は、特別管理産業廃棄物として管理型処分場で処分する。			
イ アスベスト含有材は、石綿含有産業廃棄物として安定型処分場で処分する。			
○ 石綿含有建材（安定型最終処分場）／ 搬出距離： 約 km			

備 考			有 限 公 司 鳴 海 建 築 設 計 事 務 所 東京都墨田区両国3-21-8 MKT <sup>®</sup> 13階 一級建築士事務所 東京都知事登録 第39356号 一級建築士登録 第156407号 鳴海義一	工 事 名 称 旧 寺島図書館解体撤去工事		図 面 番 号  A -03
				図 面 名 称 特記仕様書－ 3	縮 尺 N S	